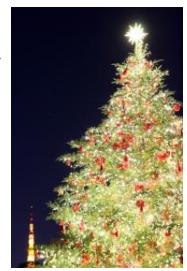


☆ 羅針盤

No.69

東港金属株式会社
 東京都大田区京浜島2-20-4
 電話 03-3790-1751
 URL <http://www.tokometal.co.jp>
 (見学受付)
 電話03-3790-1751 又は 各営業担当

今年も当たり前のように時は流れ12月になりました。12月を旧暦の別称では師走と呼びますが、師走の語源や由来については諸説紛紛で蘊蓄・雑学好きの方々の格好の題材となっております。そして直ぐに睦月(1月)を迎えます。年齢をとると時の流れが早く感じるとシニアの方達が良く仰います。そう我々凡人は、時は流れるものと思っております。だから「過去、現在、未来」を語るのですが、かのアインシュタインは「過去、現在、そして未来の間の区別が、単なる幻想にすぎない。たとえ、その幻想が非常に強いものであるとしても。」しかし「時間の流れの中で、「今」に特別な意味があるらしいということは、認めざるをえません。」と語っております。



こうなると凡人の世界を超えてもっと深い別の世界に入らねばなりません。我々は、過去を良しとし、今を大切に、未来という新しい年を迎えることに致しましょう。東港金属株式会社は非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物の処理を“いつでも”お受けいたします。身近なリサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



☆ 羅針盤

- 鉄スクラップ** → 考察) 11月は東京製鉄宇都宮工場特級価格15,500円/トンでスタート。最終的には500円/トン下げの15,000円/トン。11月中旬浜値が1部下値を押し上げましたが、現状横ばい状態。12月も同様と思われる。
- 銅** → 考察) 11月はLME価格5,090ドル/トン、国内銅建値670,000円/トンでスタート。最終的には4,600ドル/トン台、国内銅建値も600,000円/トン。12月に関しては、最大需要国である中国の経済減速の不安から多少の上げ下げはあるものの横ばいと思われる。
- アルミ** → 考察) 11月LME5,090ドル/トン台でスタート。最終的には1,440ドル/トン台まで下がりました。12月は自動車生産の伸び悩みから2次合金需要が停滞しているため、上物・裾物共に更に下がると考えられます。
- プラスチック** → 考察) 夏ころから始まった下げが12月も続くと思われれます。品位の悪いMixプラの価格が今後つかなくなる可能性大。

営業部 Y の考察

11月予測の自己評価

鉄スクラップ	○	アルミ	○
銅	×	プラスチック	○

☆ 羅針盤

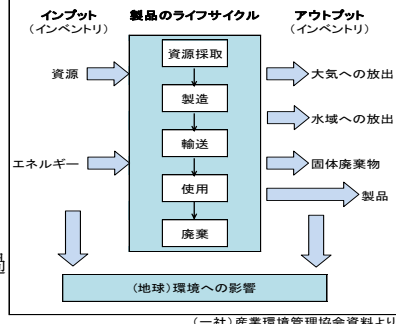
環境配慮製品の評価(LCA)と廃棄物処理

昨今の企業活動では環境配慮型経営として環境に配慮した製品の開発が求められております。では、環境に配慮した製品とは何か、その評価の基準は何かについて、今回はご紹介いたします。

現在、環境評価方法で多く用いられている手法が、「LCA(Life Cycle Assessment: ライフ・サイクル・アセスメント)」です。

LCAは、1960年代終わりにコカ・コーラ社が「ガラスのリターナブル瓶と使い捨て容器との環境負荷の比較」を行ったことが始まりとされております。その結果は、一般的な条件下ではリターナブル瓶の方が環境負荷は小さいものの、輸送距離が長い場合や瓶の回収率が低い場合は結果が逆転して使い捨て容器の方が良いという結論になったようです。この手法は1970年代にアメリカ環境保護庁(EPA)によって研究が進められ、1980年代には「エコバランス」という名称で使われていました。

LCAとは、評価する製品の原材料調達(資源採取)から廃棄までの全過程(ライフサイクル)を通して、資源消費量や排出物量を計量し、製品が環境へ与える影響を評価(アセスメント)する手法で、使用段階だけでなく、製品の原材料の調達や廃棄といった使用者には見えない過程での環境影響も評価します。



この時の各過程(製造、輸送等)で環境負荷項目をどれくらい消費(原油OKL等)・排出(CO2t等)するかを定量的に推定評価したものをインベントリと呼びます。インベントリは関連する工業会が作成したインベントリデータベースを利用することもできますし、個別に過程内のプロセスの積み上げによって求める場合もあります。

各過程個別のインベントリ比較で、使用過程の消費エネルギーを減らすことに成功した製品では、使用時の環境負荷は小さくなります。また、廃棄過程での環境負荷を考慮し、再資源化し易い素材を使用し、素材別に分解・分別し易い設計をされた製品は、廃棄時の環境負荷が減少することになります。しかし、この製品の製造時での消費エネルギーがそれら以上に増えていたのでは、ライフサイクル(全過程)では環境負荷が増えてしまうことになってしまいます。

自動車業界や電気・事務機業界では既に活用しておりますが、最近では食品メーカーもLCAを取り入れているようです。

廃棄物業界ではどうでしょうか。廃棄時の環境負荷の大きさは、製品の設計に依存することもあります。破碎・切断・圧縮梱包・焼却等々の処理過程における環境効率の向上を、常に考慮していくことが今後とも大事なのではないのでしょうか。

廃棄物処分業に関連するインベントリデータは「LCA日本フォーラムデータベース(2015年度2版) 掲載インベントリ分析用データ一覧」に参考データとして記載されておりますが、閲覧は会員に限られております。

【参考】ニッスイ PR誌「GLOBAL」



私のリサイクル業人生 (東港金属と共に)

第4回

芝から京浜島に移転した時の第一印象は、前回に述べたように景色の広さでした。そして、新たな事業への第一歩でもありました。

東港金属は現在、産廃処理業の許可を持っておりますが、私が産廃を扱った最初の仕事は、ナゲット加工(被覆電線から被覆と金属線を分離する加工)を始めた際に、加工後に出る廃被覆材を中央防波堤の埋立地に運ぶ業務の担当で、産廃処理の流れをこの時教わりました。

次第にナゲット処理量が増えたことで平成6年(1994年)に大型ナゲットプラントを設置し、また将来を見据えて、産業廃棄物処理業へ参入したことで、本業の非鉄金属問屋と青銅鋳物合金製造に、ナゲット銅製造事業と産業廃棄物処理業が加わりました。

その後平成9年に、精錬部門と営業部門を統一し、京浜島へ一緒に移転してきた東京銅合金株式会社を東港金属が吸収合併し、現在の東港金属株式会社の形になりました。

平成13年(2001年)には家電リサイクル法が施行され、東港金属は法に基づく指定引取場所を開設しました。ヤード内には、毎日のように使用済みのテレビ、エアコン、電気洗濯機そして電気冷蔵庫が運び込まれました。一方、産業廃棄物である業務用の冷蔵庫やエアコンの処理も増え、フロン処理などにも気遣いが必要となりました。

家電リサイクルの取扱いで多忙を極めていた平成14年9月に、3代目勝年社長が58才という若さで急逝されました。余りに急な事で、社員としては先のことなど全く分かりませんでした。幸いにもその年に、勝年社長のご長男である福田隆氏が入社されており、営業の勉強をしておられていたので、4代目社長を継承されホッとしました。

しかし、毎日ヤード内での仕事に追われている私は知りませんでした。家電リサイクル法が施行された2001年頃から、市場のニーズが変わり、首都圏には鋳物工場が少なくなっておりました。また、ナゲット生産量も最盛期には月300tもあったものが、需要減となってきておりました。現社長は平成16年にそれら環境変化に合わせて、銅合金精錬とナゲット事業をクローズさせました。

この時期から、伝統的な非鉄問屋から総合リサイクラーへ方向を転換していったのです。

4代目(現社長)が社長を引き継いだ当時は28才でした。それから今日まで10余年間、リーマンショックもありましたが、市場環境の変化に合わせて、金属に拘わらずオール資源のリサイクルが出来るように、非鉄專業だった場所に、プラスチックペーパルプラントやギロチンシャーを導入して都市型総合リサイクル業への転換を続けています。社員も都度導入される設備操作の勉強をし、それぞれの産廃の材質や処理方法を覚え、当社から出ていく処理後の品物を最良の二次処分先へ送ることが出来るよう頑張っています。

平成19年には、千葉県富津市に千葉工場が開設しました。次回にお話ししましょう。

石平光夫 (執行役員専務)